

新大病院たより

和

第54号

(標題：中野雄一 元病院長)

患者総合サポートセンターを開設しました



高齢者の増加という背景もふまえ、医療の目的は単に病気を治癒に導くことのみならず、病気や障がいを持ちながら生活を継続するという視点を持つことが求められています。そのため、地域において医療機関は適切に役割分担—地域連携—し、在宅医療や介護とも連携するネットワークを上手く機能させる必要があります。また高齢者の長期入院は、入院自体が身体機能や認知機能を低下させる原因となるので、病院では効率的な入院医療を提供し、早期に退院し生活に戻るための支援—退院支援—を行うことも大切です。

私たちの病院では、これまで地域保健医療推進部という部署が地域連携と退院支援を院内多職種との協働のもと行ってきました。今回こうした医療をバックアップする機能を更に強化するため、患者総合サポートセンターという新たな部署を立ち上げました。

外来玄関を入ってすぐ左手に「患者総合サポートセンター」という看板が掲げられたカウンターがあります。ここは、入退院時の手続窓口であるとともに、従来各診療科で個別に行っていた入院予定患者さんに対する説明、オリエンテーションや情報収集を入院が決まった段階で一括して行い、もし入院治療が円滑に進むことを阻害するような要素がある場合には早期に解決を図るため支援することとしています。以前は入院時にスタートしていた退院支援を入院前から支援を行う入退院支援に機能強化したというわけです。また同じフロアにある医療相談室では、医療ソーシャルワーカーと事務職員が常時患者さんやご家族からの多種多様な相談ごとに迅速に対応します。

患者総合サポートセンターに常駐する主なスタッフは看護師、医療ソーシャルワーカーと事務職員ですが、医師、薬剤師や管理栄養士などセンターに所属しない院内多職種も適宜ここに出向いて必要な支援を行う体制を整備しています。入院外来を問わず不安なことやわからないことがあれば、お気軽にセンターあるいは医療相談室のスタッフにお声がけください。

(患者総合サポートセンター 鈴木一郎)



● 本院の理念・目標 ●

◆ 理 念 ◆

生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、
人間性豊かな医療人を育成します

◆ 目 標 ◆

患者本位の安全で安心できる医療を提供します
豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
病院運営の適正化と効率化を促進します



新潟ドクターヘリ見学会を開催しました

平成29年10月、今年度2回目となる「新潟ドクターヘリ見学会」を開催しました。

この見学会では、新潟県ドクターヘリ事業へのご理解を深めてもらうため、ドクターヘリ事業の概要を説明するとともに、ドクターヘリの機体や屋上ヘリポートなどを見学していただいております。

見学会当日は、雲が多めながらも青空が広がり、さわやかな秋空の下で行われました。午前部、午後部と分けて開催しており、それぞれ20名ほどの参加がありました。



見学開始直前に要請が入り、ヘリが離陸したため、機体を間近に見ることが出来ない時間帯もありましたが、時間内に帰着し、なんとか見学いただけたということもありました。

フライトドクターからは、救急車搬送に比べた、ドクターヘリの有効性の説明などがあり、実際にストレッチャーを引き出し、実際の機内の様子を紹介しました。見学者の方、皆さんそれぞれ、フライトスタッフへ質問されたり、機体に触れるなどしていただきました。子どもたちはヘルメットをかぶって操縦席に座り、パイロット姿の記念写真を撮ってもらっていました。また、ヘリポートからの眺めもご覧いただきました。ヘリポートは、5階建て外来棟の屋上にあるため、周囲の景色もよく見え、佐渡島や日本海、弥彦山、ビッグスワンなども望めます。

ドクターヘリの性質上、見学時に必ずヘリポートに駐機しているとは限らないのが少し残念なところですが、これはやむを得ないことですので、ご容赦いただきたいと思います。

さて、この見学会ですが、年に2回程度、春と秋に開催しております。ご案内は、開催の1か月前くらいに病院のホームページなどでお知らせします。機会がございましたら、見学会にご参加いただいて、間近でご覧になってもらいたいと思います。

検査部がISO 15189の認定を受けました



平成29年9月、当院検査部はISO 15189認定を取得しました。

ISO 15189とは、国際標準化機構（ISO）より作成された臨床検査室の品質と能力に関する国際規格です。この規格の要件を満たすことは、検査結果を報告する検査室のレベルが国際基準に達していることを意味しております。取得のために日本適合性協会（JAB）より厳しい審査を受け、規格に準拠した管理体制・技術能力のある検査室として認められ、当院検査部はISO 15189認定施設に加わりました。

検査部は、日々の検査業務と併せてISO 15189認定を維持し、高度医療を担う大学病院の医療チームの一員として、患者さんへ安心・安全な医療を提供するために、継続的な改善活動を推進してまいります。



向かって左から、星山検査技師長、南野検査部長、日本適合性協会専務理事、松田副技師長



病気の基礎知識

23

口腔リハビリテーション科

せつしよくえん げしょうがい

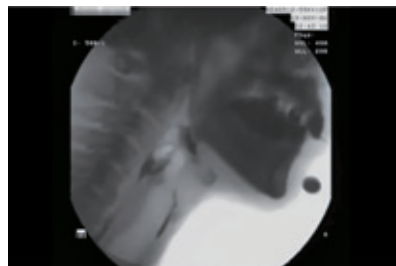
「摂食嚥下障害とは？」

超高齢社会（全人口の21%以上が高齢者である社会を指します）となった日本において、近年摂食嚥下障害に注目が集まっています。摂食嚥下障害とは、脳卒中やパーキンソン病、口腔や咽頭（いんとう）の癌など、多くの病気をきっかけに嚥むこと・飲み込むことが上手くできなくなった状態を指します。その結果、食べ物や唾液（つば）が肺に落ち込んで誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）を発症したり、食べ物のがどに詰まって窒息を起こす危険が増えます。うまく飲み込みができない場合は以下のような症状が現れることがあります。

- ・体重が減った、食べる量が減った
- ・食欲がない
- ・食事中よくおせる
- ・痰絡みが多い
- ・食後に声がガラガラする
- ・発熱を繰り返す



嚥下造影検査



摂食嚥下セミナー

口腔リハビリテーション科は、高齢者に多い口腔疾患、ことに摂食嚥下障害、味が分からない（味覚障害）、唾液が出にくい（口腔乾燥症）などの症状をもつ患者さんを診る診療科です。エックス線や内視鏡を使った「嚥下造影検査」や「嚥下内視鏡検査」などを行い、症状に応じて食事の形態や姿勢に関するアドバイスをしたり、機能回復を目指したリハビリテーションを実施しています。誤嚥性肺炎で亡くなる方の90%以上は高齢者です。嚥むことや飲み込むことに不安がある方は、お近くの病院スタッフにお声がけください。また、病院内ローション向かいにあるアメニティモールにて、一般の方向けに摂食嚥下セミナーを定期開催しています（第2、4火曜日午後）。摂食嚥下障害に関することだけでなく、高齢者のお口の悩みに関する様々なテーマの講義を行っています。事前予約不要、無料で参加できます。ぜひご参加ください。

（口腔リハビリテーション科 教授 井上 誠）

中央診療施設紹介 ②②

医師キャリア支援センター

平成18年から、テレビ会議システムの専用回線を使用して、大学病院と県内28病院を結んで症例相談をしています。珍しい症例や、専門外の症例で大学の専門医の意見が必要な時にシステムを通して検討をすることが出来ます。

また、研修医の皆さんが手術や検査手技を体験できるシミュレーションシステムを導入しました。

その他に、医療系学生を対象にして年2回、ワークショップとフィールドワークを開催しています。近年では、超高齢社会における口腔ケアの大切さを考え、体験実習ができるプログラムを行っています。医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・言語聴覚士・薬剤師等による多職種連携やチーム医療が大切なことを、学生の皆さんに考えてもらい、実際に施設で体験実習しています。



院内イベントのご紹介



院内コンサート

入院患者さんを対象とした院内コンサートを開催しました。このコンサートは、本院教職員が中心となって企画したもので、平成29年11月30日にウインターコンサートを、平成30年3月7日にスプリングコンサートを開催しました。

いずれのコンサートも70人以上の患者さんやご家族が来場され、美しい音色に手拍子をしたり、一緒に口ずさんだりして、皆様それぞれに楽しい時間を過ごされていました。

院内コンサートは定期的に開催しております。主治医の許可を得たうえでご来場ください。

ウインターイルミネーション

冬の夜に灯る温かい光で患者さんや来院されるご家族の心に癒やしと勇気を与えられることを願い、平成29年11月20日、病棟玄関前においてウインターイルミネーション点灯式が行われました。

平成18年から始まり、今回で12回目となるウインターイルミネーションは、年末年始の恒例のイベントとなっています。

今回はイルミネーションをリニューアル。カウントダウンに合わせてスイッチが押されると、ツリーやトナカイ、雪だるまなど、LEDを使用したイルミネーションが一斉に灯り、集まった患者さんやご家族からは大きな拍手と歓声が上がりました。

イルミネーションは、平成30年1月8日まで病棟前広場をきらびやかに彩り、多くの方々に喜ばれていました。



サンタさんの病棟訪問

クリスマスが間近に迫る平成29年12月18日、サンタさんが病棟にやってきました。

これは、本院職員がサンタさんやトナカイ、ツリーやお星様に扮し、各病棟の入院患者さんひとりひとりにクリスマスカードをお届けするもので、毎年恒例のイベントの一つです。

思いがけないサンタさんの訪問とプレゼントに、患者さんは驚きながらも皆笑顔で、サンタさんと握手をしたり、一緒に記念撮影をするなど、一足早いクリスマスを楽しまれていました。

バックナンバーは本院ホームページ(<http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/about/koho.php>)からご覧になれます。

新大病院たより「和」(第54号)

発行日／平成30年3月

発行者／新潟大学医歯学総合病院広報委員会

〒951-8520 新潟市中央区旭町通一番町754番地

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2408まで)